

# 高校生考案 SDGs堆肥

静岡・JAふじ伊豆 店舗で販売協力



店頭で「マスマス元肥」を紹介する高校生（静岡県富士宮市）

市の魚二ジマスの普及新商品の開発などを進める中、同会議所（16）は「地元で有効活用すれば生産者の処理費用が軽減できる上、

SDGsにある廃棄物の発生防止や削減、再生利用などにも役立つ」と説明する。

## 特産ニジマス残さ・「朝霧牛」ふん活用

【静岡・ふじ伊豆】富士宮市内の高校6校で構成する「富士宮高校会議所」は、持続可能な開発目標（SDGs）に関連する活動の一環で、市特産のニジマスの加工時に出る残さと「朝霧牛」の牛ふんを混ぜ合わせた堆肥「マスマス元肥（げんび）」＝写真＝を開発し、地元のJAふじ伊豆の協力を得て資材店舗での販売を始めた。農家を含む地域住民に、身近な資源の循環利用への理解を広めたい考えだ。

富士宮高校会議所



高校生の活動を今後も応援したい」と話す。

組み合わせ、2019年に商品化した。堆肥は「富士宮市マスマス元肥」と名付けた。市を通じて小中学校に堆肥を提供するなどして、地域での

普及を進めてきた。地域の農家を含め、多くの人に使ってもらうためJAに販売を依頼。快諾を得て、ふじ会議所メンバーらは残さの用途を検討する中で「堆肥として使うことができる」と発案。

地元堆肥メーカーの協力を得て開発した。堆肥として品質を安定させ、資源の循環利用を一層加速させるため「朝霧牛」の牛ふんと「マスマス元肥」の牛ふんを混ぜ、資源の循環利用を「マスマス元肥」と名づけた。市を通じて小中学校に堆肥を提供するなどして、地域での

普及を進めてきた。地域の農家を含め、多くの人に使ってもらうためJAに販売を依頼。快諾を得て、ふじ会議所メンバーらは残さの用途を検討する中で「堆肥として使うことができる」と発案。

山さんは「JAの資材館でも販売が始まったのは、とてもうれしい」と喜ぶ。「通常堆肥に比べリン酸、カリウム、アミノ酸が多く含まれていることも利点の一つとして知ってもらいたい」と願う。

同資材館では15円500円、5kg350円で扱う。JAの富士宮地区購買課ふじのみや資料館の佐野直哉課長補佐は「堆肥利用を通じ、持続可能な社会づくりを志し、地域農業にも貢献したいと願う